

校庭での思い出

数年前の12月、ある卒業生から「先生、お久しぶりですがお元気ですか。ちょっとお願いがあって電話したのですが」という言葉で始まる電話があった。

中学校の教職員がよく感じることであるが、卒業してしばらくすると進学先の学校や職場でのいろいろな経験から、言葉遣いや態度等が急に大人びることが多い。我々にとってその変化は「成長したなあ」という喜びを与えてくれるとともに、若干の寂しさを伴った複雑な心境をも味わわせてくれるものである。

さて、その電話の内容である。彼は、建築関係の仕事に従事し、ある仕事でイチョウの葉が必要なのであらかじめ夏の終わりに準備していた。しかし、予想以上に葉が必要になり、その数が不足して困ってしまった。そんな時、自分の母校の中学校にはイチョウの木がたくさんあることを思い出し、冒頭の電話となったわけである。

残念なことに、その時にはすでにイチョウの葉は黄色に変わっており、緑色の葉が必要な彼の目的は達成できなかったが、昔話に盛り上がった後、「先生、お忙しい時、おじゃましました。また、中学校の方へ寄せてもらいます。先生方によりしくお伝えください」という言葉で電話が終わった。



もうすぐ卒業式。一人ひとりが中学時代の経験や校庭での思い出をもとに、人間的に成長して行ってほしいと感じる季節がまた、やってきた。